

閲覧用

ご自由にご覧ください

第14回

伊賀市非核平和推進

中学生広島派遣事業

報告書



伊賀市・伊賀市教育委員会・伊賀市中学校長会

第 14 回伊賀市非核平和推進
中学生広島派遣団

参加生徒の
みなさん

崇広中学校

平田 萌恵子

緑ヶ丘中学校

藤森 歩珠

城東中学校

稲森 穂乃香

上野南中学校

松村 美月

柘植中学校

辻本 凌太

霊峰中学校

山崎 聡真

島ヶ原中学校

近藤 秀平

阿山中学校

城 健

大山田中学校

葛原 友人

青山中学校

椎名 司真

7月26日
事前学習会



8月9日
事後学習会



出発式

市長、副教育長から激励を受けました。

8月5日
(日)



被爆体験講話

14歳のとき、爆心地から2km離れた畑で被爆した山本定男さんからお話を聞きました。



爆心地・原爆ドーム・広島市立本川小学校見学

爆心地の原爆被災説明板と、原爆の惨禍を伝え、核廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルである原爆ドームを見学しました。そして、爆心地にもっとも近い学校として被害を受けた本川小学校平和資料館へ向かいました。



原爆の子の像へ折鶴献納

伊賀市内の中学生一人ひとりが平和への祈りを込めて折った折鶴を捧げました。また、平和への願いを込めて鐘を鳴らし、手を合わせる生徒もいました。



広島平和記念資料館見学

原爆の惨状を示す写真や資料を見学しました。



8月6日
(月)

平和記念式典参列

広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参列しました。



放射線影響研究所

放射線が体に与える影響などについて、展示を見たり、
研究員に話を聞きながら学びました。



解散式

出迎えてくれた先生や保護者の方に元気な顔を見せ、2日間を締めくくりました。



崇広中学校 平田 萌恵子

私が今回の広島派遣に参加して、印象に残ったことは、私たちと同じくらいの年齢の人達が被爆して、やけどをしたり、亡くなったりしたことを学んだことです。広島に原爆が落とされた73年前の8月6日は、爆心地の近くで、建物疎開のために、多くの国民学校高等科や女学校の1、2年生が動員されていました。その約8,200人のうち、約6,300人が原爆の被害を受け、亡くなったそうです。



私は、このことを知って、戦争や原爆は、たくさんの方が傷つけられ、73年たった今も苦しんでいる人がいるのは、とても恐ろしいことだと改めて感じました。

私は、このようなことは二度とあってはいけないと思いました。二度と戦争を起こさないようにするには、73年前の出来事を、過去のことにせず、事実を知り、今の自分に何ができるのかを考えることが大切だと思います。

私が今できることは、感謝して授業を受けることです。それは、戦争が起きていたときには勉強したくてもできなくて、私たちが今、授業を受けられることは当たり前ではないと気付いたからです。

そして、たくさん学んだことを周りの人に伝え、平和を願う人を増やしていきたいです。

緑ヶ丘中学校 藤森 歩珠



8月6日の空は雲ひとつ見えない青々とした空でした。まるで73年前を思わせるその空で、ただ一つ違うこと、それはその空に原子爆弾があるかどうかということだけです。

私が2日間広島に行かせていただいて、一番心に残った事、それは平和記念式典での小学生による「平和への誓い」でした。そこには、「平和とは、自然に笑顔になれること。平和とは、人も自分も幸せであること。平和とは、夢や希望をもてる未来があること。」という言葉がありました。私はその言葉を聞いた時、「では、私にとって平和とはなんだろう。」と思いました。私にとっての平和とは、今こうして家族がいて、友達がいて、ご飯を食べて、笑ったり、悲しんだり、あたり前の生活をおくる事です。

だから、私はその平和を守り続けるために、広島派遣で学んだ事や知った事を学校などで発表します。そして、多くの人に過去の事実を知ってもらい、関心を向けてもらいたいです。今の自分や周りの人に関心を向けることで平和な時代を築いていけるのではないかと考えています。



私が今回の広島派遣に参加して、最も印象に残ったのは、平和記念式典です。

8月6日の朝、平和記念公園には日本だけでなく、世界中からたくさんの方が集まっていました。今まで、テレビ中継などでしか見たことのなかった平和記念式典ですが、実際に参加すると、たくさんの方が核兵器のない平和な社会になるよう、祈りをこめて参加していることが感じられました。そんな中で私が一番心に残ったのは、広島市の小学生の「平和への誓い」です。「私たちは無力ではないのです。」という力強い言葉に心を打たれました。私は、今回の広島派遣で学ぶことができた、原爆の悲惨さやたくさんの方の思いについてきちんと向きあい、伝えることで、小さくても核兵器廃絶のための力になりたいと思います。

そして、たくさんの方の命を一瞬で奪っただけでなく、今もなお、たくさんの方の体と心を苦しめ続ける原爆が、もう二度と投下されることのない、核兵器のない平和な世界をつくらなければならないと強く思いました。

広島での2日間は、良い経験になりました。

1日目に行った広島平和記念資料館では、あらゆる視点から見た原爆の資料が展示してありました。その中でも印象に残ったのが、花柄のワンピースです。血の痕跡がまだ残っていて、ビリビリに破けていました。それは原爆の悲惨な様子を訴えているように思えました。なんの罪もない人々の未来を奪い命を一瞬にして奪った原爆に対して怒りを覚えました。目をそむけたくなるような事実ばかりでした。平和記念式典には日本人だけではなく、いろんな国から人々が集まっていました。平和を願う気持ちは、世界共通だと思いました。

原爆投下から73年経った今でも苦しんでいる人がいます。だからこそ、今回学んだことは伝えていかなければなりません。原爆を詳しく知らない人達に関心をもってもらい、さらに理解を深めてもらうことが未来の平和に繋がっていくと思います。



つじもと りょうた
柘植中学校 辻本 凌太

私がこの広島派遣事業で印象に残っているのは本川小学校でのことです。

本川小学校には被爆前の市内の風景や、被爆後の小学校や授業の様子が写真で展示されていました。私はまず、被爆前と被爆後の本川小学校周辺の写真を見比べました。その中で私が一番記憶に残っているのは原爆ドームの写真です。被爆前の原爆ドームは今の姿から想像できないほど立派で大きな建物で、今のような無残な姿にしてしまう原子爆弾の恐ろしさを改めて感じました。他にも強烈な爆発の影響で変形してしまった日本軍の銃などがそこには展示されていました。



さらに展示物を見ていると、被爆後の授業の様子が写真と文字で説明されていました。そこには、「一部が決壊した教室で、板に黒い塗料を塗って黒板替わりにし、寄せ集めのいすと焼け焦げたレンガの上に座って授業を行っていた。」と書かれてあり、今の自分たちの環境とは全く違いました。

広島へ行く前の事前学習会の時に同じ派遣団の子が、「この広島で起こったことは、作った話ではなく、実際に起こったことなんだとしっかり考えていきたいです。」と言っていました。自分が実際に広島に行って本当にそうだと思います。山本さんの講話や資料館で見た資料の数々には目をそらしたくなるようなものもたくさんありました。そんな出来事だからこそ自分がしっかりと話を聞き、考え、家族や学校、そして伊賀市の人たちに知ってもらわなければいけないなと思いました。

そして、何の罪もない人たちの命をうばう戦争は、二度と起こしてはいけなと改めて思いました。

やまざき そうま
霊峰中学校 山崎 聡真



僕は、広島派遣に参加して山本さんのお話の中の被爆者が結婚差別にあっていたという事が心に残りました。僕はその事を聞いて、どんな理由があっても差別はいけなし、許せないことだと思いました。放射能がうつるといふ間違ったうわさにより苦しめた人がたくさんいた事を知り、本当かわからないうわさなどをうのみにせず、正しい事を学んでいく事の大切さを感じました。次に広島平和記念資料館の中にあつた対話ノートという物が心に残りました。そのノートには、日本人だけではなく世界中の人達の平和への思いが書かれていました。僕はノートを見て、たくさんの方が平和について考えていて、一人ひとりが行動をおこす事が未来の平和につながっていくと思いました。そして僕も行動をおこす一人になろうと思いました。原爆投下によって焼け野原になってしまった広島ですが、たくさんの方々の力で復興していった姿を見て、たくさんの方が行動をおこす事が大切だと思いました。

僕は広島派遣を通して、平和記念式典に参加できたことがとてもいい経験になったと思いました。一番印象に残ったのはこども代表の「平和への誓い」です。広島に原爆が落ちたこと、それによってたくさんの人々が亡くなったことは、全て人が起こしてしまった惨劇です。でも、人が起こしたことは人が止められるはずで、今もある核兵器の開発や戦争も止められるのは僕たちなのだと思います。この「平和への誓い」の最後にある「私たちが学んで心に感じたことを伝える伝承者になります。」という言葉もとても共感できました。戦争が終わってから73年がたって当時の広島の様子を知る人もだんだん減ってきているそうです。そんな中、僕たちは当時の話を聞き学ぶことができました。僕たちが大人になったとき広島、長崎での出来事が「過去の事」にならないように見て、聞いて学んだ事を伝えていかななくてはならないと強く感じました。式が始まって午前8時15分になった時に黙とうをしました。原子爆



弾によって亡くなった10万人以上の人々に気持ちを伝えることができましたと思います。二度と戦争を起こさない誓いをたてました。また、未来に向けて、核兵器の廃絶や後遺症に苦しむ人を助けようとする人がいることも知ることができました。今、自分にできることは広島で見て感じて学んだことを多くの人に伝えることだと思いました。また、学校全体にしっかり広めて、みんなで考えていけるようにしたいです。

阿山中学校 ^{じょう} 城 ^{たける} 健

この広島派遣を通して印象に残っていることは、平和記念資料館と平和記念式典です。

まず、平和記念資料館では、ある一枚の写真が心に残っています。その写真はある被爆者の方の写真で、その人の身体はひどい火傷でただれていました。僕は、その写真を見た時思わず目を背けてしまいました。しかし、このように苦しんでいた人がいたんだと知り、戦争、そして核兵器はあってはならないと強く感じました。



平和記念式典では、日本だけではなく、様々な国からたくさんの方が訪れていて、世界の多くの人々が世界平和や、核兵器がなくなることを強く望んでいることを感じることもできました。

しかし、世界では多くの国で核兵器が保有されています。その現実を恐ろしく感じました。そして、だんだん戦争や核兵器の恐ろしさを知る人が減っています。だから、今回自分が知ったこと、感じたことを周りの人とも共有して、戦争についての記憶を風化させないようにしたいです。

僕は、この広島派遣事業で多くのことを学びました。まず、原爆ドームを見学し、広島平和記念資料館で原爆によってボロボロになった衣服や亡くなった人の遺品を見ました。それらは原爆が落ちたその当時の姿のままでした。それらから核兵器の恐ろしさを感じ取ることができました。そして、戦争が繰り返されないようにしたいと思いました。

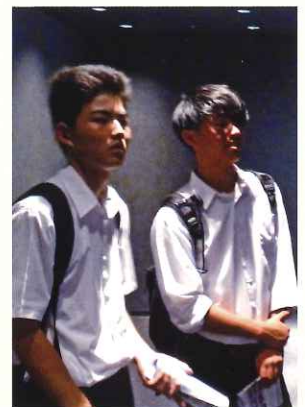
次に、核兵器がない平和な世界をつくるには、被爆された方々だけでなく世界中の皆で考えていかないといけないということです。平和記念式典には世界中から多くの方々が訪れていました。世界中の人たちが非核平和を願っていることがわかりました。僕は式典の中での「平和への誓い」で印象に残っている言葉があります。それは「人間は、美しいものをつくることができます。人々を助け、笑顔にすることができます。しかし、恐ろしいものをつくってしまうのも人間です。」という言葉です。核兵器を作るのも戦争をするのも私達人間です。しかし、私達人間は非核平和を願い、美しい世界をつくっていけるはずですよ。



過去に起きたことを変えることはできませんが、これからの未来を平和な世界へと変えていきたいです。

私は広島派遣を振り返ってみると、学んだ事がたくさんあったと思います。見学では多くの事を吸収できました。学んだ事を友達同士で話し合ったりすることで、人との接し方なども勉強になりました。

見学では自分が思っていた通り知らない事が多くて、広島に来てよかったと思いました。特に心に残ったのは、平和記念資料館です。3階の壁にはあってある、原爆の落ちる前の写真と落ちた後の写真が心に残っています。やはり原爆が落ちた後のまちのすがたが衝撃的すぎて、脳裏に焼き付いています。また、上から見下ろせるまちの模型があって、そこに映像が重なって、原爆が落ちた瞬間とその後の様子が再現されていました。原爆が落ちた後には本当に何も無くなっていました。原爆による被害の大きさ、原爆の恐ろしさを改めて感じる事ができました。



今の日本は平和ですが、広島派遣に参加して、かつて戦争があり原爆が落とされたということを実感することができました。そして、同じ過ちを繰り返してはいけないと思いました。



